

東京都写真美術館

年報 2025 – 26

Annual Report:

Tokyo Photographic Art Museum 2025 – 26

TOP MUSEUM

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



# 東京都写真美術館年報 2025 – 26

Annual Report: Tokyo Photographic Art Museum 2025 – 26



東京都写真美術館は令和7年1月に総合開館から30周年を迎えることができました。これもひとえに、皆様からの温かいご支援とご厚情の賜物と、心より感謝申し上げます。

令和7年度は、総合開館30周年記念として、「ルイジ・ギッリ 終わらない風景」展や「ペドロ・コスタ インナーヴィジョンズ」展など国際的評価が高い作家を取り上げるほか、「TOPコレクション 不易流行」展や「TOPコレクション トランスフィジカル」展など、学芸員がチームで企画を練り上げ、お互いに切磋琢磨しながら展覧会を完成させるという新たなアプローチにも挑戦するなど、これからの30年の活動を見据えた多角的な視点で、収蔵展5本、自主企画展3本、誘致展6本の合計14本の展覧会を開催しました。

また、本年度で18回目を迎えた映像とアートの国際的なフェスティバル「恵比寿映像祭」では、「あなたの音に|日花聲音|Polyphonic Voices Bathed in Sunlight」と題し、写真、映像、サウンド、パフォーマンスなどを通じて、不協であったとしても響き合い、重なり合う思考や存在が交差し、視覚的・聴覚的なポリフォニーを深く形成し、美術館に留まらず、恵比寿地域の文化施設や飲食店とも連携しながら多様なプログラムを展開しました。

当館の活動の基盤をなす作品収集においては、東京都からの受託事業に加え、当館の支援会員である企業の皆様からのご支援や作家のご寄贈などにより、写真史、映像史において、更なる発展に寄与する作品や、展覧会の成立に必要な不可欠な作品を厳選し、376点の作品を新たなコレクションとして加えることができました。

教育普及の分野では、多様な世代の多様な関心をもつ方々が美術館を楽しみ、学ぶことができる体験的プログラムを展開するパブリックプログラムや小学校から大学、各種学校までの授業や部活動、教職員の方と連携したスクールプログラムなどを実施し、参加する方への写真、映像への理解を促進しました。図書室においては、図書資料の充実を図り、配架・閲覧環境を整えることで、利用される方の写真、映像への理解へ結びました。

上映事業では、秋篠宮皇嗣殿下ご一家をお迎えしご鑑賞いただいた被爆80年誘致展に関連した映画作品を上映するなど、展覧会とのシナジーを意識した作品展開を行いました。

このような取組の結果、令和7年度は観覧者数40万7千人超のお客様にご来館いただき、平成29年度以来7年ぶりに38万人の目標を達成することができました。

このように30年の歴史を刻んできた東京都写真美術館ではありますが、館の基本コンセプトである「わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、センター的役割を担う存在感のある美術館」への道のりは未だ道半ばであり、次の30年を目指して、日々新たに挑戦を続けてまいります。

**令和7年度事業**

東京都写真美術館の運営	5
東京都写真美術館の事業内容	7
東京都写真美術館の戦略的な運営システム	8
展覧会事業	14
教育普及事業	24
社会共生の取り組み	38
作品資料収集／作品収集実績	43
令和7年度新収蔵作品の紹介	47
調査研究・普及活動（個人）	50
広報事業	54
保存科学研究室	63
図書室	65
地域連携事業	68
上映事業	72
支援会員	77
ミュージアム・ショップ／カフェ	81
数字で見る東京都写真美術館	82
美術館条例	87
施行規則	90
開館の経緯／組織図	92
フロアマップ／施設面積	93
建物概要／設備概要	94
利用案内	95

東京都写真美術館では、館のミッションを以下として、運営しています。

### 東京都写真美術館のミッション

**わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、  
センター的役割を担う存在感のある美術館を目指します。**

#### 〈過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館〉

貴重な作品や資料を的確に収集・保存し、将来の写真・映像文化発展の礎とします。また、次世代の文化の担い手である子どもや若者達に積極的に文化発信を行います。

#### 〈質の高い写真・映像文化と出会う美術館〉

社会との関連性や、国際動向を十分踏まえ、収蔵コレクションの有効活用や、調査研究に立脚しながら、質が高く満足度の高い展覧会を実施します。

#### 〈写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館〉

美術館での体験を通じ、写真・映像の技法や表現に関する理解を深めるとともに、新たな文化創造を支援する刺激のある場とします。

#### 〈写真・映像文化の拠点として貢献する美術館〉

国内外の美術館、関係機関との連携を深めながら、写真・映像文化の拠点として、多様な事業を推進する上で貢献できるよう努めます。

#### 〈開かれた美術館〉

来館者の視点に立ち、人々に広く活用されるとともに、企業、団体、ボランティア等の参画を募り、開かれた美術館とします。

## 1 世界有数の写真・映像コレクションの構築と、 世界への発信

### ○国際ネットワークの構築

世界の関係機関との信頼関係を築き、ネットワークを強化し、国際シンポジウムの開催、海外への企画展・収蔵展の巡回、共同企画、ワークショップ等の開催を促し、世界に向けて日本の写真・映像の魅力を伝え、相互交流を活発化させる。

### ○画像WEB公開など情報システムの充実

写真美術館の所蔵作品の画像WEB公開等の取組を強化し、都民をはじめ世界中の人々に広く発信する。

### ○情報発信力の強化

ホームページの刷新や広報誌、プレス等の従来型の活動に加え、海外メディア・ネットワークを広げ、美術館における複数言語対応など、国際化広報スキームを構築し、国際発信力を高める。多彩な手段による新たな発想の広報活動を展開し、アウトリーチを高めていく。

## 2 写真・映像の可能性に挑戦する新進作家の支援

### ○日本の次世代を代表する旬の作家の個展や新進作家展の開催

様々な価値観や世代が交流するきっかけとするため、一過性ではなく、持続可能な文化的事業として位置づけ、連続的に開催することによって、長期的な遺産となるよう展開する。また、作家が展覧会を契機に世界進出できるようなシステムの構築を目指す。

## 3 来館者につねに感動を与える美術館

### ○話題の国際展の開催

現在最も世界的に活躍しているアーティストの展覧会や19世紀の初期写真、世界が直面するテーマに関する国際展などを開催することにより、国際都市東京をアピールし、優れた写真・映像の鑑賞機会を提供する。

### ○上映事業の質向上

写真・映像の専門美術館ならではの映画館として、ラインナップを磨きさらに魅力を高めた上映事業とする。

## 4 来館者の立場に立った開かれた美術館

### ○地域との連携

地域のアートネットワークを構築するとともに、近隣施設と協同し、地域活性化に寄与する。

### ○あらゆる人が享受できる多彩なワークショップ、スクールプログラム等の学校との連携、ボランティアとの協働

すべての人のウェルビーイングに寄与するべく、多様な方がともに参加できるインクルーシブなプログラムを展開する。次世代を担う児童・生徒の可能性を引き出すと共に、子どもから上級者まで様々なニーズを充たす、より魅力的なプログラムを人々に提供する。

### ○支援会員制度の運営

企業・団体との協力をより強化する。

## 5 過去と現在、先端技術と芸術文化が融合する、 領域横断的なフェスティバルの実施

### ○「恵比寿映像祭」のバージョン・アップ

国際フェスティバル「恵比寿映像祭」の国際発信力に磨きをかけ、国内外の先進的なアーティストを招集すると共に、領域を横断した作品や過去の名作を取り上げ、展示、上映、ライブ・イベント、講演、トーク・セッションなどを複合的に実施する。映像分野における創造活動の活性化を図り、優れた映像表現を、過去から現在、未来へと継承し、異なるジャンルの対話を促す場とする。

恵比寿を訪れた様々な方が多様な興味を持つことができるフェスティバルとしての魅力向上。

## 6 未来に向けた文化の継承

### ○適切な作品収集、管理、保存による貴重な作品の次世代への継承

計画的な収集、保存科学の研究に基づいた最適な作品管理によって、都民の貴重な財産である作品・資料を、次世代に継承する。

### ○外部収蔵庫・施設の確保・運営

作品の大型化・デジタル化により、全作品の美術館内収蔵が困難であることから、外部施設を確保し、貴重な作品を次世代に継承する。

### ○ここに来れば世界中の写真集が見られる、世界一の図書室

写真・映像の専門図書室として、写真・映像に関するすべての資料が揃う、一般の人から専門家までが満足するワン・アンド・オンリーの図書室を目指す。

## 1. 展覧会事業

3階、2階、地下1階に設置する約500㎡の3つの展示室で、年間を通じて展覧会を開催。収蔵している3万9千点を超える（令和8年3月31日現在）写真・映像作品を中心に紹介する収蔵展のほか、支援会員の支援を基に実施する自主企画展、他団体の企画による誘致展など多種多様な企画を実施する。

## 2. 教育普及事業

講演会や、パブリックプログラム（写真ワークショップ、映像ワークショップ、鑑賞ワークショップ）、スクールプログラム（小学校、中学校、高等学校などとの連携授業）、インクルーシブ・プログラム、ギャラリートーク、博物館実習生、インターンの受け入れ、美術館ボランティア事業などを実施する。

## 3. 作品資料収集・保存・管理

収集の基本方針に基づき、写真および映像作品・資料、写真機材などを収集し、保存、管理を行う。

## 4. 調査研究

国内外の写真史、映像史、美術史や写真論、映像論、美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロスオーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウムなどに反映させる。

## 5. 広報事業

展覧会、写真・映像文化の普及をはじめとした事業に関する広報宣伝（記者懇談会、写真美術館ニュースの発行、チラシ等配布、ホームページ管理・運営、広報イベントの企画・運営、ポスター、外壁ディスプレイシート、懸垂幕の掲出など）を行う。

## 6. 作品・資料等に関する情報提供

収蔵作品および図書資料に関する情報の収集、登録、管理、運用ができるようデータベースを整備する。情報検索システムを利用し、来館者向け検索サービスを実施するとともに「Tokyo Museum Collection」によりオンラインで国内外に発信する。収蔵作品の特別閲覧を実施する。

## 7. 保存科学研究室

展示および貸出前後における収蔵作品の状態調査、収蔵条件および展示条件の決定、収蔵作品の修復および展示室の環境調査、写真資料の保存・修復に関する研究を行う。

## 8. 図書室

図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、調査研究の支援を行う。

## 9. 上映事業

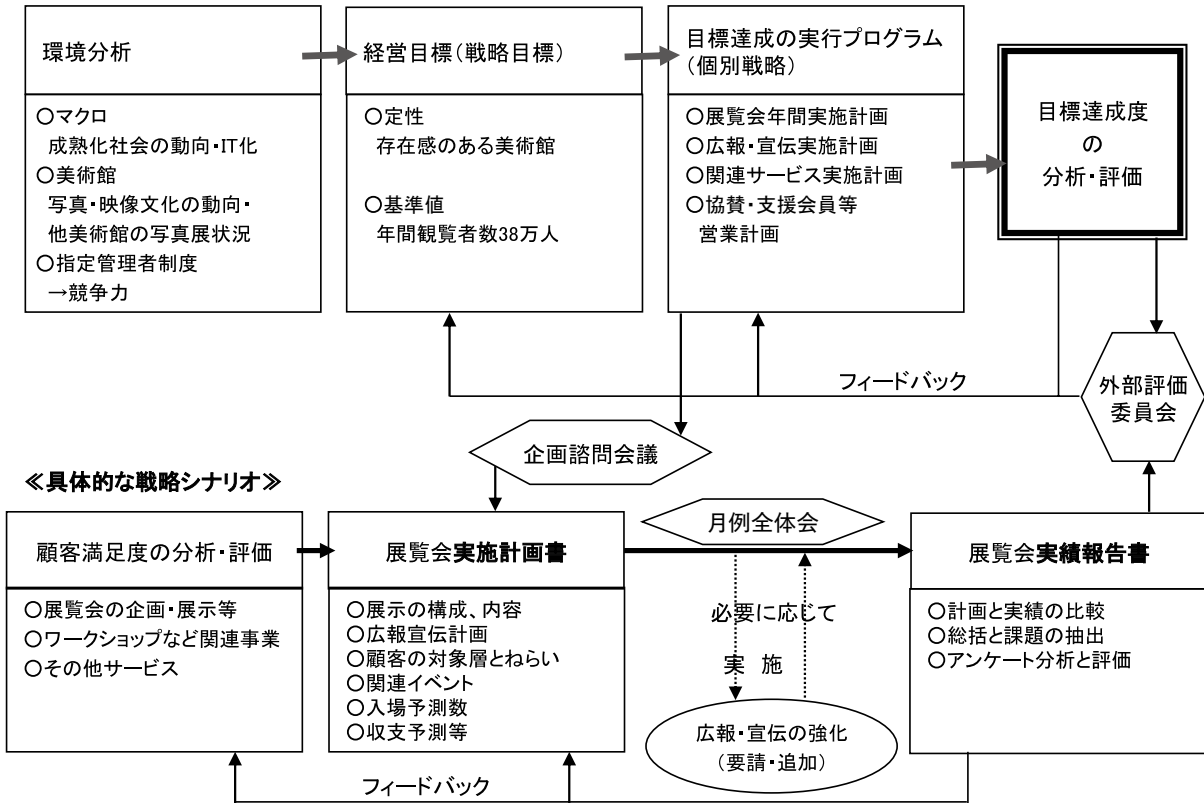
1階ホールで、写真美術館ならではの芸術性が高く、良質な映画の上映を行う。

## 10. 支援会員

写真・映像に係わる文化や芸術等の振興をはかるとともに、東京都写真美術館の活動を支援することを目的として、法人支援会員制度を設立し、より多彩に充実した事業を展開する。

# 東京都写真美術館の戦略的な運営システム

写真美術館では、民間企業で取組んでいる戦略的経営の考え方や視点を参考にして運営システムを構築しており、環境分析から戦略目標、個別戦略、事業計画さらには目標管理まで一連の仕組みを定めている。



## 《経営目標の設定》

**定性目標 「存在感のある」美術館運営**  
 とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気を目指す。  
 ○写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術・音楽・映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。  
 ○日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。

**年度別コンセプト**

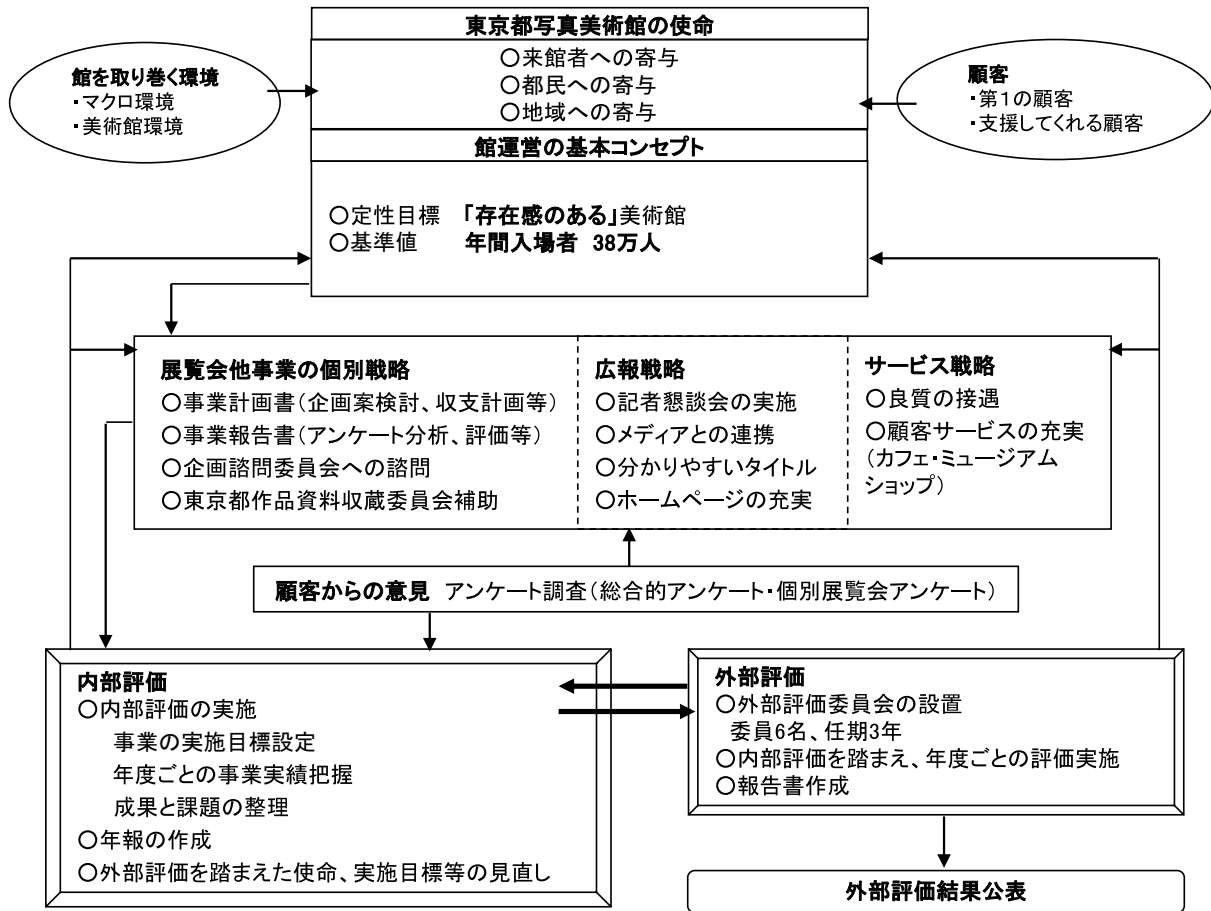
平成13年度 「静かな賑わい」	平成25年度 「楽しみ方いろいろ美術館」
平成14年度 「写真(映像)とは何かを伝える」	平成26年度 「未来を創造する美術館づくり」
平成15年度 「感動を与える」	平成27年度 「『写真美術館らしさ』とは何か？」
平成16年度 「明るく迎える美術館」	平成28年度 「恵比寿の顔となる美術館」
平成17年度 「信頼される美術館」	平成29年度 「また来たくなる美術館」
平成18年度 「判りやすく説明する美術館」	平成30年度 「たのしむ、まなぶ美術館」
平成19年度 「対話する美術館」	平成31年度 「にぎわいのある美術館づくり」
平成20年度 「顔が見える美術館」	令和2年度 「賑わいある美術館づくり」
平成21年度 「交流を広げ、つながりを強める美術館」	
平成22年度 「お客様のニーズにチャレンジ！」	
平成23年度 「広報マインドと実践」	
平成24年度 「発信、写美から世界へ」	

※令和3年度より年度別コンセプトを設定せず、「東京都写真美術館のミッション」を遂行する。

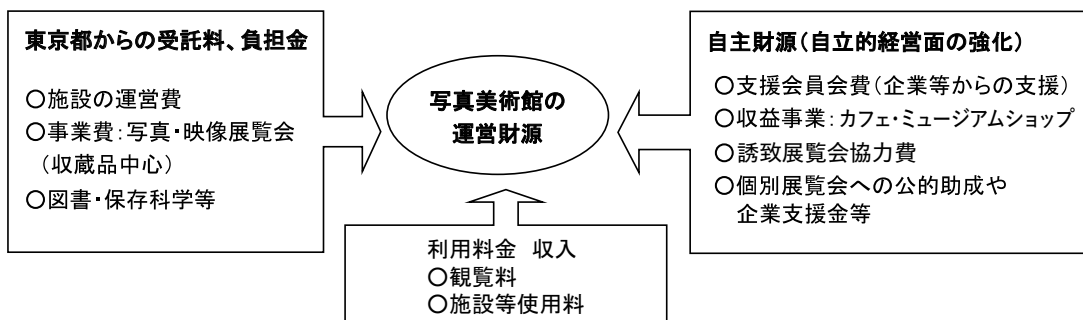
定量目標		年間入館者 38万人超
平成13年度	227,183人(前年度比 1.04倍)	平成27年度 38,497人(前年度比 0.16倍)
平成14年度	364,307人( " 1.6倍)	平成28年度 270,066人( " 7.01倍) ※H28.9.3~リニューアル・オープン
平成15年度	413,289人( " 1.1倍)	平成29年度 384,093人( " 1.42倍)
平成16年度	431,521人( " 1.04倍)	平成30年度 334,799人( " 0.87倍)
平成17年度	441,705人( " 1.02倍)	平成31年度 360,607人( " 1.08倍)
平成18年度	443,107人( " 1.01倍)	令和2年度 158,338人( " 0.44倍) ※R2.2.29~6.1臨時休館
平成19年度	365,871人( " 0.83倍)	令和3年度 209,004人( " 1.32倍) ※R3.4.25~5.31臨時休館
平成20年度	415,456人( " 1.14倍)	令和4年度 318,262人( " 1.52倍)
平成21年度	428,514人( " 1.03倍)	令和5年度 335,721人( " 1.05倍)
平成22年度	427,223人( " 0.99倍)	令和6年度 374,990人( " 1.12倍)
平成23年度	429,657人( " 1.01倍)	
平成24年度	407,382人( " 0.95倍)	
平成25年度	404,256人( " 0.99倍)	
平成26年度	238,844人( " 0.59倍) ※H26.9.24~大規模改修のため休館。	

基準値38万人(参考目標値\*:22万8千人)  
 \*コロナ影響を勘案した目標数に設定  
**令和7年度 407,846人 (前年度比1.09倍)**

## 館運営と事業評価の概念



## 運営財源



わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、センター的役割を担う「存在感のある美術館」を目指し、質の高い展覧会の開催、作品資料の収集・管理と活用、都民の文化活動を支援する教育普及事業、専門性の高い図書室の運営等に取り組むとともに、誰でも美術館での時間を楽しんでいただけるようアクセシビリティの向上に努めた。

### 総合開館30周年事業

- ・1995年に恵比寿ガーデンプレイスで総合開館して30周年を記念した事業を開催した。

### 展覧会

- ・収蔵展5本、自主企画展4本、誘致展6本合わせて15本の展覧会を開催した。
- ・展覧会の理解を深めるためのアーティストトーク、学芸員によるギャラリートーク等関連イベントを実施した。

### 作品収集

- ・東京都による作品資料収蔵委員会の審議を経て、376点の作品を収集した。
- ・収蔵作品合計39,135点（令和8年3月31日現在）

### 作品管理

- ・既収集作品の著作権処理や作品データを整備し、東京都歴史文化財団が運営する「Tokyo Museum Collection (ToMuCo)」において作品資料情報を公開した。

### 教育普及事業

- ・スクールプログラムのほか、視覚障害者とともに鑑賞するプログラムや暗室での写真現像体験を行うモノクロ銀塩プリントワークショップ、地域の施設との協働によるワークショップを実施した。これらに加え新たな試みとして、鑑賞した作品のイメージをからだ全体で表現してみるダンス・ウェルや大学機関との共同による4×5カメラでのポートレート撮影ワークショップを行うなど、年間を通して多くの方が美術館を楽しみ、学ぶ機会を提供した。

### ◆恵比寿映像祭

- ・総合テーマを「あなたの音に|日花聲音|Polyphonic Voices Bathed in Sunlight」と題し、社会に存在する多様な文化、言語などが互いに影響し合う複層的な現在の環境へ、木々の間から洩れた柔らかな光が照らすように写真、映像、サウンド、パフォーマンスなどを通じて、不協であったとしても響き合い、重なり合う思考や存在が交差し、視覚的・聴覚的なポリフォニーを深く形成するように、展示や上映、演劇、教育普及プログラム、シンポジウムやトークセッション、新たに財団連携によるCCBTや近隣飲食街などを加えた地域連携など、多様なプログラムを展開し、広く写真美術館の存在感を高めるミッションに貢献した。
- ・選出したアーティストに制作委嘱した映像作品を「新たな恵比寿映像祭」の成果として第2回コミッション・プロジェクト特別賞受賞者と東京都コレクションを広く周知する展示を行い、恵比寿映像祭終了後も令和8年3月22日まで上映・展示した。

### ◆図書室

- ・来館者が気軽に立ち寄ることができるよう、展覧会図書の紹介やエフェメラ資料（チラシ、はがき等）の展示を充実させて集客を図った。
- ・総合開館30周年を記念し、当館主催で開催されてきた展覧会図録カタログをテーマ毎に6期に分けて展示紹介し、当館のこれまでの活動の理解促進に努めた。
- ・閉架書庫内の電動書架の基盤交換工事のほか、図書室入口のブックディテクションシステムの交換工事を行い、図書室内設備の整備を行った。

### ◆支援会員

- ・年度計画に沿って自主企画展や恵比寿映像祭の開催支援、収蔵作品の購入を支援した。
- ・収蔵展・自主企画展の「特別内覧会」の案内を行った。
- ・7月の理事会に合わせて「支援会員懇談会」を開催した。
- ・2月に「企業交流会」を開催した。

### ◆広報活動

- ・ギャラリートーク方式のプレス内覧会、記者ブリーフィングを実施した。
- ・公式X（旧ツイッター）やInstagramによる展覧会情報やイベント告知など、SNSを使った広報や交通広告を積極的に活用し、多くの方への周知を図った。

- ・お正月特別開館時に「TOPのお正月」を実施し、新年を祝う賑やかなイベントを行った。
- ・総合開館30周年を記念し、プリントシール機による記念撮影、来館プレゼント、連携広報等を実施し、ライトユーザーからTOPファンまで幅広く来館機会を提供した。
- ・総合開館30周年記念サイトを運営し、インタビューや動画等のコンテンツを発信した。

#### ◆アクセシビリティの向上

- ・ウェブサイトのアクセシビリティを向上するとともに、やさしい日本語版 館案内パンフレットや展覧会を鑑賞する際の「やさしい見どころガイド」を作成した。
- ・英語、中国語、韓国語といった言語や手話のできる受付スタッフを配置するとともに遠隔手話サービスを活用して案内を行った。
- ・手話による展覧会解説動画の公開や手話通訳付きギャラリートーク、ボランティアによる鑑賞サポートを行った。
- ・音声コードUni-Voice（ユニボイス）を活用したほか、視覚支援機器・聴覚支援機器を導入した。

## 企画諮問会議

座長 島 敦彦 国立国際美術館 館長  
副座長 榎木 野衣 多摩美術大学美術学部教授  
植草 学 信濃毎日新聞社編集委員  
木ノ下智恵子 アートプロデューサー、  
大阪大学21世紀懐徳堂准教授  
高島 直之 武蔵野美術大学名誉教授  
都筑 正敏 豊田市美術館チーフキュレーター  
原 久子 大阪電気通信大学総合情報学部教授

開催日 令和8年3月17日(火)  
議 題 令和7年度実績及び令和8年度計画について(報告事項)  
審議事項 展覧会の考え方について  
新たな展覧会企画について

## 外部評価委員会

座長 杉田 敦 美術批評  
副座長 片岡 英子 ニューズウィーク日本版副編集長・フォト・  
ディレクター  
委員 倉石 信乃 明治大学大学院理工学研究科教授  
田口 友子 当館ボランティア  
富岡 良之 サッポロ不動産開発株式会社  
取締役執行役員 恵比寿事業本部長

### 第1回外部評価委員会

開催日 令和7年4月16日(水)  
議 題 令和6年度事業外部評価項目(事業報告)の聴取について

### 第2回外部評価委員会

開催日 令和7年5月15日(木)  
議 題 令和6年度事業評価について

## 記者ブリーフィング

開催日 令和8年2月12日(木)  
議 題 令和8年度展覧会および事業説明

## 作品資料収蔵委員会

### 【収集部会】

委員長 安田 篤生 高知県立美術館館長  
神山 亮子 府中市美術館学芸係長  
沢山 遼 美術批評家/武蔵野美術大学准教授  
角 奈緒子 金沢21世紀美術館学芸課長  
畠中 実 キュレーション/批評  
林 洋子 兵庫県立美術館館長

### 【評価部会】

委員 浦野むつみ ANOMALY ディレクター  
小川 貴之 PGI アシスタント・ディレクター  
木村絵理子 弘前れんが倉庫美術館館長  
近藤 健一 森美術館 シニア・キュレーター  
鈴木 利佳 ZEIT-FOTO SALON マネージングディレク  
ター  
増田 玲 東京国立近代美術館 写真室長  
松本 綾子 nap gallery ディレクター

開催日 令和7年11月12日(水)  
議 題 令和7年度新規収蔵作品の調査検討等

## 令和7年度トピックス

令和7（2025）年4月16日	第一回外部評価委員会
5月15日	第二回外部評価委員会
8月14日～9月26日	サマーナイトミュージアム2025開催 (木・金曜日は夜間開館を夜9時まで延長)
10月1日	都民の日 展覧会無料サービス
10-11月	総合開館記念トークセッション
11月12日	作品資料収蔵委員会
1月2日・3日	お正月特別開館「TOPのお正月」 実施
3月17日	企画諮問会議

## 受賞

- 「鷹野隆大 カスババ この日常を生きのびるために」展に伴う北川一成のグラフィックデザインに対しADC2025 グランプリ
  - 「遠い窓へ 日本の新進作家vol.22」展出品作家 寺田健人の新作に対しVOCA2026 奨励賞
  - 「作家の現在」展出品作家 志賀理江子に対し第一回梅原猛人類哲学賞
  - 誘致展「被爆80年企画ヒロシマ」2026日本写真協会学芸賞
- (敬称略)

## 総合開館30周年記念事業

2025年開催展(収蔵展・自主企画展)を記念事業とした。  
pp. 14-18

2025年10-11月にトークセッションを開催。国内外の美術館や写真・映像に関する活動を多彩なゲストをお迎えして、さまざまな角度から写真・映像とこれからの30年を考察した。詳細は要旨(和英)のアーカイブ参照。URL [https://topmuseum.jp/30th\\_anniversary/](https://topmuseum.jp/30th_anniversary/)

2025年10月9日(木) 14:00-16:00

ゲスト:ロクサーナ・マルコチ Roxana Marcoci(ニューヨーク近代美術館キュレーター)

モデレーター:丹羽晴美 学芸員

「恵比寿映像祭と変わりゆく映像体験」

2025年10月17日(金) 18:00-19:30

ゲスト:岡村恵子(東京都現代美術館学芸員)

モデレーター:田坂博子 学芸員

「アジアからの視点:写真史を複数化し再構成する」

2025年10月18日(土) 14:30-16:30

ゲスト:チェン・ジャチー 陳佳琦(写真史家)、ウー・スーイン 吳詩滢(ナショナル・ギャラリー・シンガポールキュレーター)

モデレーター:遠藤みゆき 学芸員

「写真を満喫するメソッド〜技術と歴史〜」

2025年10月25日(土) 16:00-17:30

ゲスト:高橋則英(日本写真芸術学会会長)、鳥海早喜(日本大学芸術学部准教授)

モデレーター:三井圭司 学芸員

「公立美術館における写真表現の可能性」

2025年11月1日(土) 14:30-16:30

ゲスト:笠原美智子(長野県立美術館長)

モデレーター:丹羽晴美 学芸員

「美術館のコレクション・ケア:レジストラーと美術輸送の視点から見るコレクションの現在とこれから」

2025年11月2日(日) 14:30-16:30

ゲスト:小川絢子(国立国際美術館主任研究員レジストラー)、笈奈雅子(国立西洋美術館主任研究員)、相澤邦彦(ヤマト運輸(美術) スペシャルアドヴァイザー/コンサヴァター)

モデレーター:堀田文 レジストラー

「遠い窓へ 日本の新進作家vol.22」展 関連事業トーク

2025年10月19日(日) 14:00-15:30

ゲスト:竹内万里子(批評家・作家、京都芸術大学教授)、スクリプカワ落合安奈(出品作家)、岡ともみ(出品作家)

モデレーター:大崎千野 学芸員

2025年10月26日(日) 14:00 《はだかのゆめ》上映後アフタートーク

ゲスト:甫木元空(出品作家)、尹雄大(インタビュアー)

モデレーター:大崎千野 学芸員